

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

TEL : 03-3519-5181 FAX : 03-3597-5171 メール : jaera-homepage@elv.or.jp

URL : http://www.elv.or.jp/

平成27年度 定期社員総会、無事終了

平成27年6月11日(木)、ELV機構の「平成27年度 定期社員総会」が東京都中央区のTKP東京駅日本橋カンファレンスセンターにて開催されました。内容は、以下の3部構成で非常に充実したものとなりました。

第1部 定期社員総会 (13:00 ~ 14:00)



■総会成立

社員40名のうち、出席29名／欠席11名／委任状10通。社員の過半数の出席により、本総会は成立しました。

■すべての議案が承認可決

すべての議案において社員による多数の挙手を以て承認可決されました。

(写真：議長を務めた河村代表理事)

第2部 会員交流会 (14:15 ~ 15:45)

■会員との意見交換

社員の方だけでなく、会員の皆様から、会員数減少や事業内容・活動内容についてなど、さまざまなご質問やご意見をいただきました。

※詳細内容は次ページ参照

写真：組合内での活動についてご紹介して下さった北海道自動車処理協同組合の佐藤理事長 →



第3部 懇親会 (16:00 ~ 17:00)



■国や関係団体からの参加

経済産業省の金澤室長、環境省の山口室長補佐、自動車リサイクル促進センターの葛西専務理事、日本自動車工業会の嶋村部会長に来賓のご挨拶をいただきました。また、自動車再資源化協力機構の阿部代表理事に乾杯のご挨拶をいただきました。

(写真：経済産業省自動車課の金澤室長)

目次

巻頭言 1
トピックス	
定期社員総会 1-3
産構審・中環審合同会議 4
福島県組合表彰 4
自動車リサイクル士 5
未来政策部会 5
鉄スクラップ最新情報 6
行事予定・お知らせ 7
編集後記 7

巻頭言

先日、ある車好きの若者と話す機会があった。色々話をしているうちに最後にその若者は「今興味を持てるような新しい車が販売されないのでもつまらない」と言った。

最近若者の車離れが問題となっているが、まだまだ車に興味を持っている若い人達は多いと思う。ただその若い人達が乗ってみたいと思うような車が販売されていないし、販売価格が若者に手が届かないようなものになっているのも理由らしい。

もっと若者向けのニーズに合った車が出てくれば、まだまだ車産業のすそ野ももっともっと広がるような気がする。

(広報部会 副部会長 田村 幸男)



会員の皆様から寄せられたご質問・ご意見

定期社員総会で会員の皆様から寄せられたご質問やご意見をご紹介します。

※ 紙面の都合上、一部抜粋とさせていただきます。また、重複する内容については、一つにまとめているものもございます。ご了承ください。



ELV機構への加盟のルールについて

ご質問1 ELV機構には、地区組合員全員加盟の原則（各地域の組合員は全員ELV機構に加盟する）があるが、現状そうではない地域が存在している。どう対応していくのか？
また、地域団体に所属せずに単独で入会することは可能なのか？

回答1 ELV機構という組織では、地区単位の組合のメンバーが全員ELV機構の会員として加盟するという基本ルールがあるが、全国で徹底されていない。今回ご質問いただいた以外の地域からも「不公平感があるのではないか」といったご指摘を受けている。
この件に対して、本年度の総会資料集にも「平成27年度 総務部会 活動計画（案）」として「業界団体統合へ向けた活動」を行うと書いているが、組織構成のルール作りから見直さなければいけないだろうと考えている。組織の在り方から見直しを行い、皆さんが参加しやすい組織にしていきたい。

会員数の減少や空白県への対応について

ご質問2 会員数が減少しているが、なぜ減ってしまったのか？どう対応していくのか？
また、空白県（解体業者がいるのにELV機構への加盟がない地域）について、今後どう対応していくのか？

回答2 業界を代表する団体として、全国で実際に解体を生業としている業者さんが3000社ほどあると言われていた中で、会員数が現状600社をきっているというのは、組織率が低い状態になっていると言える。
一つの理由としては、昨年度に会費改定があり、そのタイミングで退会された方が90社程度いらっしゃいます。会費に関しては、ご負担いただいている会費が決して高いものではないと感じていただけるような活動を行うことに尽きると思う。
また、ELV機構という組織の成り立ちに関して、10年という歳月を経て見直さなければいけない部分があるのではないかと議論がある。総務部会で組織の在り方について見直していき、会員の皆さんに参加いただきやすいような形を作れたらと考えている。その中で、空白県へのアプローチも行う予定である。皆様からご意見をいただきながら計画を立てて、進めていきたいと考えている。

自動車リサイクル士制度について

ご質問3 自動車リサイクル士制度認定講習会が延期になったと伺ったが、この件について詳しくお聞きしたい。また、自動車リサイクル士を国家試験にということだが、いつ頃の実施を目指しているのか？

回答3 自動車リサイクル士については、産構審・中環審合同会議でも「一部の解体業者による講習制度」として取り上げられ、国や関係団体からの注目も高まっており、現在内容をブラッシュアップして「優良事業者の育成」に活かせるように、さまざまなご意見をいただいている。これらのご意見を受けて内容を考えながら、国や関係団体との意見交換を進めている最中なので、もう少し待っていただけたらと思う。
また、国家資格というのは、私たちが言うものではなくて、関係団体の皆様や自動車ユーザーの皆様の求める形になるよう努力して初めて実るものだと思う。周りの方々から国家資格として必要なものであると感じてもらえるように、いろいろな意見をふまえてしっかりとした内容を作っていきたい。ご協力のほどをよろしくお願いしたい。

業界の底上げについて

ご意見1 自動車リサイクル法ができて10年が経ち、我々の業界の底上げになったのか、底上げになったのかという問題がある。ELV機構も我々の組合も会員さんが減ってしまっている。こういう組合や団体というのは、やはり業界の底上げを追求していかないと会員さんがどんどん減っていってしまうという危機感がある。現在、入庫台数も少なくなってきた、仕事量をどうやって確保していけばいいのか、このまま競争原理だけで進んでいってしまうと先行きが非常に不安である。
これは今すぐに「こうすればよい」という結論が出ることではないということ、よく分かっているので、次年度の最重要テーマとして、考えていってほしいということ意見を述べていただく。

未来政策部会について

ご意見2 未来政策部会の活動計画について、総会資料集には「若手経営者育成講演会」とあり、「さまざまな諸先輩方から教えを受けることで～（中略）～経営に活かす」と記載されている。しかし、まったく違う観点から物事をみられる若手を育てないとこの業界は発展しない。今までのままやっていると、価格競争で“車が入らない”と嘆く歴史を繰り返すだけである。若手の育成を目的とするのであれば、「諸先輩方」からの知識ではなく、まったく違う業界からの広い知識を持って経営にあたっていただく方がいいと思う。



フォトギャラリー

定期社員総会・会員交流会・懇親会で撮影した写真です。



産構審・中環審 第41回 合同会議が開催

平成27年6月19日、産構審・中環審 第41回合同会議が開催されました。第41回の議題として、これまで議論された内容がまとめられた「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書(案)」を中心に議論されました。報告書は大きく3章に分かれ、それぞれのテーマについて報告されています。

■ 第1章 自動車リサイクル制度の現状と評価

自動車リサイクルを取り巻く環境と状況を過去10年の統計から読み解き、その実態が報告されています。同様に自動車リサイクルシステムの運用効果も実績よりその効果の程が報告ならびに評価されています。

■ 第2章 自動車リサイクル制度の「あるべき姿」とその実現に向けた基本的方向性

これからの自動車リサイクル制度はどのように取組むべきか、そこには以下の3つの基本的方向性があります。

- ① 自動車における3Rの推進・質の向上、② より安定的かつ効率的な自動車リサイクル制度への発展、③ 自動車リサイクルの変化への対応と国際展開

■ 第3章 自動車リサイクル制度の「あるべき姿」の実現に向けた具体的取組

前章の3つの基本的取組に対する具体的な取組課題が論じられています。

以上、報告書の内容を精査する内容の合同会議でした。なお、この報告書は、今回の会議の意見を元に加筆修正された後に公開されます。

▼当日の資料はこちら

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/sangyougijutsu/haiki_recycle/car_wg/041_haifu.html



福島県自動車リサイクル協同組合、中央会から表彰



(↑写真：同組合の田村幸男代表理事)

6月2日、福島県中小企業団体中央会の通常総会が福島市内のホテルで開催されました。

総会に先立ち優良組合の表彰式があり、福島県自動車リサイクル協同組合(代表理事田村幸男)がその他11団体とともに表彰されました。

表彰にあたっては、組合における財務内容はもちろん中央会の補助・支援事業を活用してのセミナー・研修会開催等の各種事業が評価されたようです。

また、組合設立から来年で10年となりますが、当初より全組合員の協力のもと共同購買、共同販売の業績も年々向上し、徐々にではありますが組合員数も増えつつあることも評価の一つとも言えるでしょう。

福島県自動車リサイクル協同組合では全組合員の収益向上の手助けはもちろんのこと、自動車リサイクルを通して地域社会への貢献と環境保全の意識を高めながら世の中で求められる組合を目指します。

自動車リサイクル士に関するご報告

1ページから3ページまでの定期社員総会の内容でも一部触れられているとおり、現在、自動車リサイクル士制度認定講習会のスケジュールの見直しが行われております。本スケジュールの見直しは、単に講習会開催スケジュールの見直しにとどまらず、自動車リサイクル士制度の将来的な展望も考慮するものです。

経緯といたしましては、昨年度より、リサイクル技術部会を中心に、本年度の講習会の運営について議論を重ねてきたわけですが、ご協力いただく関係諸団体及び行政を含む皆様との検討会において、現在、産構審・中環審合同会議でも優良事業者の育成が重要課題として取り上げられ、かつ、自動車リサイクル士制度が活用を考慮すべき業界団体としての自主的な取り組みと言及されていることもふまえ、初年度に講習を受けられた方々の二度目以降の講習の内容も含め、将来的により業界内での有意義な資格になりうるよう再度議論を重ねております。

現在、このような形で検討を行っている段階でございますので、ご理解いただければ幸いに存じます。内容が決定し次第、皆様にはあらためてご案内させていただきます。

■ 6月17日に本年度第1回の部会を終えた清水道悦部会長よりご寄稿いただきました ■

未来政策部会の役割について

未来政策部会は政策委員（創業社長中心）と未来委員（若手中心）とで構成されました。

今までの活動内容としては、主に自動車リサイクル法の見直しに伴う取組を行い、具体的には全会員へのアンケートや意見集約、経産省との打ち合わせ等でした。

■ 今年度からの「未来政策部会」は、「次世代育成のための会」として新たに下記3つを主に発信します。



（↑写真：6月17日開催の会議の様子）

次世代人材の育成に役立てます。

今年度から未来政策部会は、主として研修・自己啓発活動、情報交換、会員相互の親睦活動を行うなど、若手会員の人格形成及びネットワークづくりが中心の活動を行います。次代を担う業界経営者・業界の指導的役割を果たす人材育成に多大な貢献をします。

ELV機構事業の活性化につなげます。

若手らしい感覚とユニークな発想、車両流通や資源部品の調査研究、講演会、多くの次世代経営者との自由な意見交換会を行う活動計画となっています。著しい成果を挙げ、当機構事業の活性化に役立てます。

ELV機構会員間の意志疎通を図ります。

当機構への意識の低下は、時代変化とともに、世代交代による組合員間の年齢格差によってもたらされている面があります。そこで当機構員間の意志の疎通を図る方策として、未来政策部会の活用が挙げられます。

今年度より若手経営者後継者（40代まで）の参加者を各ブロックより募集してまいります。事務局までお気軽にご連絡ください。明るく希望に満ち溢れた業界へ。

■ 6月第3週(19日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供 / 日刊市況通信社]



6月19日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	26,000 ~ 27,000	軟調
	南関東	26,000 ~ 27,000	軟調
名古屋		24,500 ~ 26,000	様子見横ばい
関西	大阪	24,500 ~ 25,500	強含み様子見
	姫路	24,500 ~ 25,000	強含み様子見

韓国向けH2輸出価格が下落 現代製鉄がFOB2万6500円提示

韓国向けの鉄スクラップ輸出価格が下落した。現代製鉄は今週、日本側と新規契約商談を行い、17日にH2に対して1ト FOB26,500円を提示。一部で成約を進めた。同国向け輸出価格が下落したのは4月末以来およそ1カ月半ぶりだ。

韓国ミルは、5月以降、欧米玉に対して割安な日本玉の購入を進め、H2FOB価格は6月に入り、一時28,000円弱の水準まで値上がりした。しかし、先週半ばに為替の円安進行が一服した後は韓国側が様子見姿勢に転じていた。また、高値にあったベトナム向けの輸出価格が下落したこともあり、韓国向け価格にも先安観が広がっていた。

今回の現代製鉄の提示価格はFAS換算値で25,500円 (FOBチャージ料1,000円換算)となる。一方、現在の関東H2浜値は26,000~6,500円と500~1,000円程度高値水準にある。このため、日本の輸出筋からは「(現代の提示値は)安い」(関東シッパー)とする声が聞かれる。また米国相場は堅調に推移しており、日本玉にはなお割安感が残っている。

【関東地区】電炉筋の購入価格値下げ散発 HSなど上級玉に荷余り感

関東地区では、電炉筋の値下げが散発している。需給双方とも「相場のピークは過ぎた」との見方が大勢。湾岸からの船送り数量も減少しており、市中問屋筋は電炉へ向けた出荷に動き始めている。このため電炉入荷が好転し、南関東電炉の一部で荷止や荷受制限が見られ、電炉筋の間に購入価格を下げる動きが広がっている。H2炉前実勢価格は26,000~6,500円中心、高値27,000円見当。H2浜値は26,000~6,500円中心。

【東海地区】様子見横ばいで月下旬入り業者間に出荷繰りも

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、様子見横ばいで6月第3週を終えた。地場の電炉メーカーは前月下旬以降、断続的に購入価格の引上げを実施した。H2炉前実勢価格は24,500~25,000円どころを中心に、高値26,000円どころへ直近の安値から500~1,000円(一部1,500円)方の値上がり。ただ、消費増から需給が引き締まった新断は2,000円前後の上げ幅となっている。安値筋でも実勢値ベースで中心値に近づけている。

【関西地区】入荷促進つづきなおも強含み様子見

大阪地区の鉄スクラップ市況は強含み様子見。輸出安と関東の値下がりによって、月前半までの先高期待は後退へ向かいつつあるが、月末前後にも共同輸出船積み(5,000ト)を控え、電炉入荷の正常レベルまでの回復ははまだ期待できそうにないため、実勢上値寄りもしくは水面下での引き合いはなおもつづく展開となりそうだ。H2炉前実勢価格は24,500~5,500円。姫路地区のH2炉前実勢価格は24,500~5,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、6月19日午後時点のもの)

行事予定

■ 7月の主な予定

7月7日(火)

- ・ 広報部会取材
〔 日本中古自動車販売協会連合会 〕
〔 専務理事 武藤 孝弘 様 へ取材 〕

7月9日(木)

- ・ 産構審・中環審
第42回 合同会議

7月14日(火)

- ・ 第1回 資源循環委員会
- ・ 第4回 広報部会



お知らせ

■ 会員数(2015年6月時点)

総数 599社 / 会員 574社、賛助会員 25社

■ 新規ご入会者のご紹介(2015年6月ご入会)



青森県黒岩市
「富谷オートパーツ」様

■ 自動車リサイクル士合格実績(2015年6月時点)

資格の種類	平成25年度	平成26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	37名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破砕工程)	15名	59名
自動車リサイクル管理士	626名	194名

編集後記

平成27年度日本ELVリサイクル機構定期社員総会も滞りなく終わることができました。本年度も役員一同、心構え新たに前進して行く所存です。我々広報部会も、より魅力あるニュースレターを目指して努力して参ります。皆様、応援の程よろしくお願い申し上げます。▼さて、自動車リサイクル士認定講習会の延期に関する件は気になるところです。ブロックによってはすでに会場も押さえ、準備万端という中での延期でしたので多少の混乱もありました。「大丈夫なのか?」といった不安の声も聞こえてきます。▼結論から申せば、マイナスな心配事は杞憂です。産構審内でもリサイクル士制度は期待される意見があるばかりか、むしろ現状より充実した内容を求められています。それ故に内容の精査、見直しは必然なのです。そのような実情を鑑み、今回の延期に踏み切ったということが真相です。関係諸氏は、関係団体の期待が大きいのが故に課題は重く煩悶とするところですが、近々、必ずや期待に添った内容で皆様にご報告できることは間違いのないところです。

(広報部会 部会長 永田 則男)